

地誌 第34回「ラテンアメリカ地誌(1)～自然環境と社会～」

○今回のポイント



(1)ラテンアメリカ  
 ・メキシコ、中央アメリカ、西インド諸島、南アメリカから構成される。赤道をまたいで南北に広がる広大な地域。

(2)[①]…環太平洋造山帯。高度に伴って気候や植生が変化。最高峰は7000mで氷河もある。

(3)西インド諸島…新期造山帯。多くの[②]がある。ハリケーンの被害。

(4)[③]…アンデス山脈が水源で東に流れてアフリカを横断する。世界最大流域面積。

(5)地名  
 ・[④]…オリノコ川流域のサバナ型草原。  
 ・[⑤]…アマゾン盆地の熱帯雨林

・[⑥]…ブラジル高原の長草の熱帯草原。

・[⑦]…パラグアイの沖積平野。綿花が盛ん。

・[⑧]…ブエノスアイレスを中心とする温帯草原。

(6)砂漠  
 ・海岸砂漠…ペルー海流(寒流)に下層が冷涼。上昇気流が生じない。  
 [⑨]  
 ・雨蔭砂漠…アンデス山脈の風上で降水。風下では乾燥。  
 [⑩]

1. ヨーロッパ社会の影響が強い文化

ラテンアメリカの成り立ち

(1)ヨーロッパ支配

・15世紀以前…アンデス高地、メキシコ、中央アジアに先住民の人口が集中。集約的な農業。インカ、アステカ、マヤ文明がそれぞれ栄える。

・15世紀末…15世紀末に[⑪]が西インド諸島に到達。

※1494年トルデシリャス条約→ブラジル・アジアはポルトガルの勢力圏、フィリピン・南米はスペインの勢力圏。

・16世紀…スペイン、ポルトガルなどの[⑫]の人々の植民開始

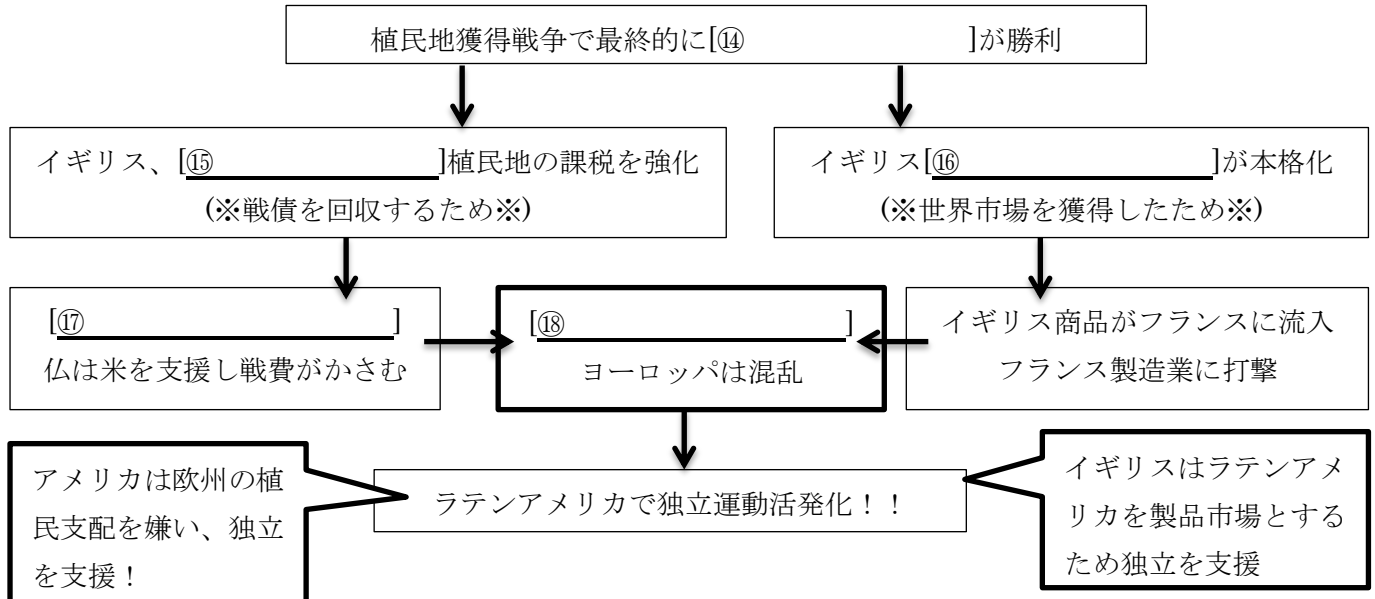
→「ラテン」アメリカと呼称されるようになった。

→先住民はヨーロッパから持ち込まれた病気や鉱山開発などで人口減少

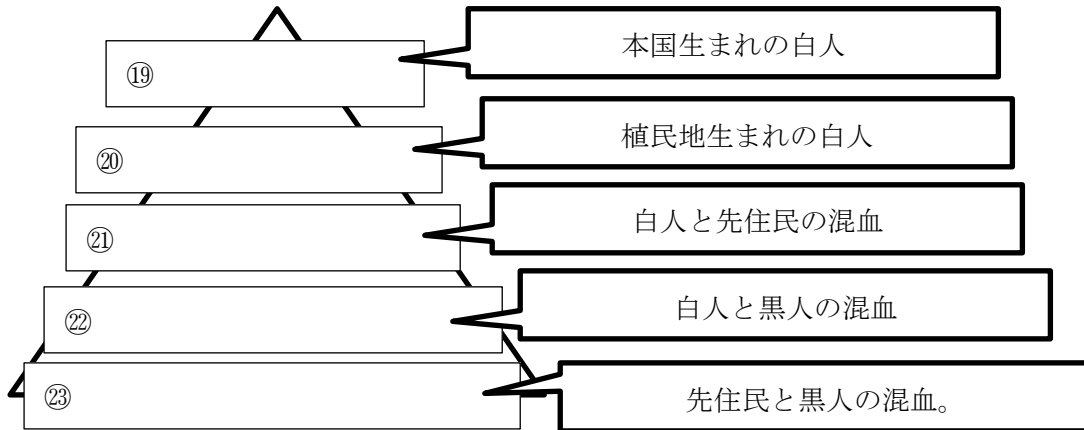
→ブラジル、西インド諸島などではプランテーション労働力のため[⑬]が強制移住させられる。

(2)植民地の独立

○環大西洋革命



○白人支配構造の残存



ラテン=アメリカ諸国の独立運動はペニンステールが主導権を握ったので、白人を中心とする少数の富裕層の支配体制は継続した。

地域によって異なる人種・民族構成

○[24]…キリスト教では「春分の日の中の最初の満月の次の日曜日」(3月後半～5月はじめ)に、十字架にかけられて死んだイエス・キリストが三日目に復活したことを記念する復活祭が開かれている。復活祭の46日前から肉食などを節制する(四旬節)が、この肉を断つ前にお祭り騒ぎをすることをカーニバルという。

○ワルプルギスの夜…復活祭の風習として「復活祭のかがり火」というものを行う。これは魔女たちがヴァルプルギスナハトと呼ばれる夜に行っていた大規模な祭りに由来する。春分の日と復活祭と春を待つ民間信仰がキリスト教化されたものである。

○[25]…アフリカ音楽を起源としラテンアメリカのカーニバルで踊られる。ラテンアメリカのカトリックは先住民やアフリカ系の伝統的な宗教と融合して独自の信仰を形成したことが分かる。

○[26]…舞踏会用ダンス。アフリカ系音楽のリズムとヨーロッパ系音楽のメロディーが混ざり合って生まれた。